

## 1 年別月別報告数（2008年～2019年2月24日）

沖縄県の風しん患者報告は、2012年から2013年にかけて患者報告が増加しました。2015年以降は散発的に報告されていましたが、2018年に関東地方での流行を契機に、同年10月以降、本県でも発生が報告されています。

先天性風しん症候群(CRS)：沖縄県では、全数把握対象疾患になった1999年4月以降の報告はありません。過去には、1964年から1965年にかけて風しんの大流行の影響で、408人のCRSが確認されています。

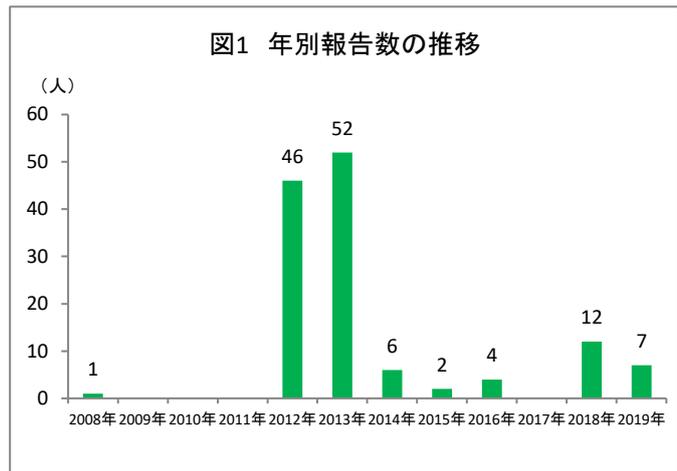
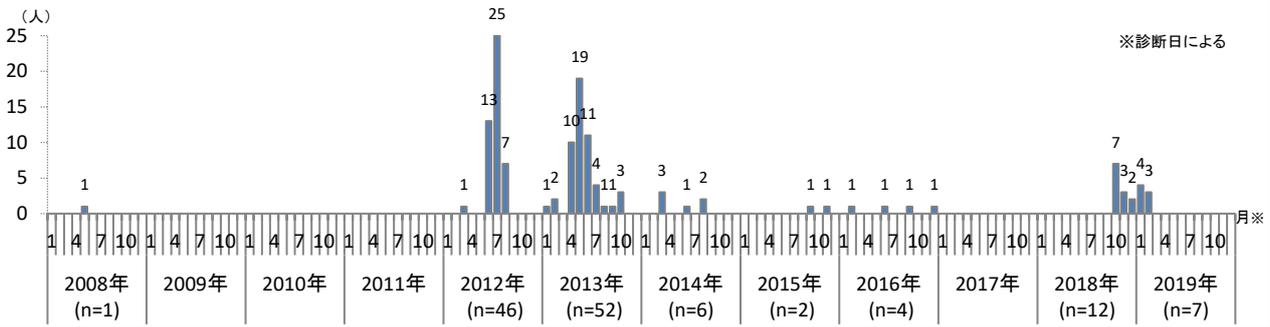


図2 月別報告の推移(2008年1月～2019年2月24日)



## 2 性別年齢別報告数（2008年～2019年2月24日）

- ・男性が67%を占めています。〔図3〕
- ・年齢階級別にみると、男性は、20歳代～40歳代が82%(71人)、女性は20歳代が65%(28人)を占めています。〔図5〕
- 報告数は、男女ともに20-24歳が多くなっています〔図6～図7〕。

図3 性別報告数

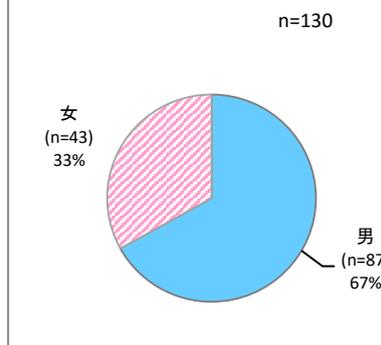


図4 年別性別報告数

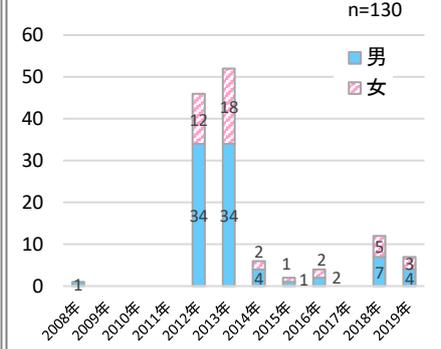


図5 性別年齢別報告数割合

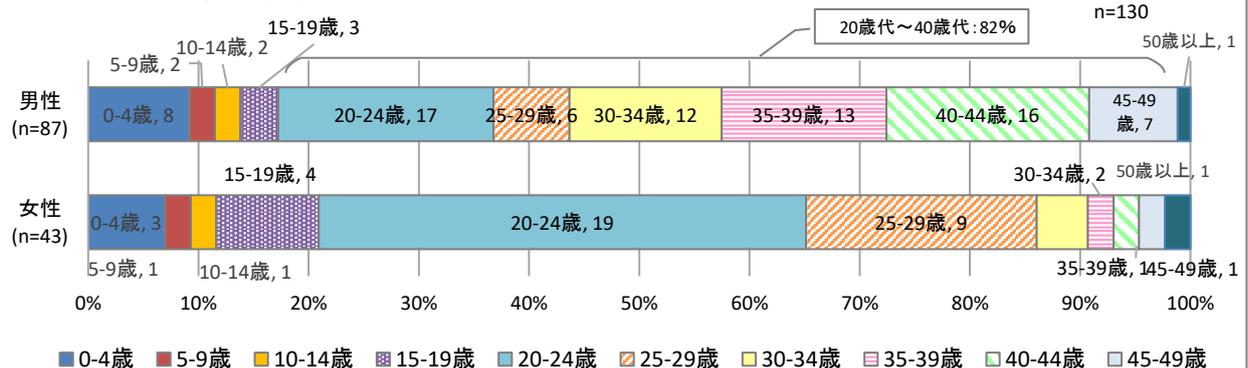


図6 年別年齢別報告数【男性】

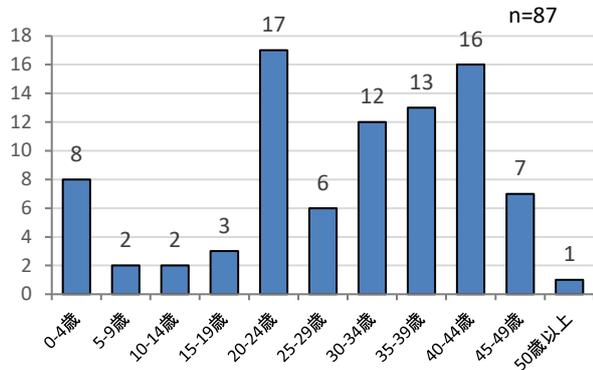
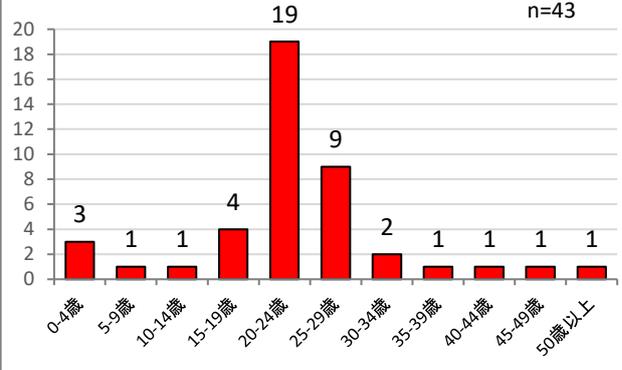


図7 年別年齢別報告数【女性】



### 3 ワクチン接種歴別報告数（2008年～2019年2月24日）

・風しんワクチン接種歴は、「無」と「不明」が多くなっています。  
 「無」と「不明」の割合は、男性で91%、女性で72%となっています。〔図8〕

図8 性別ワクチン接種歴別報告数

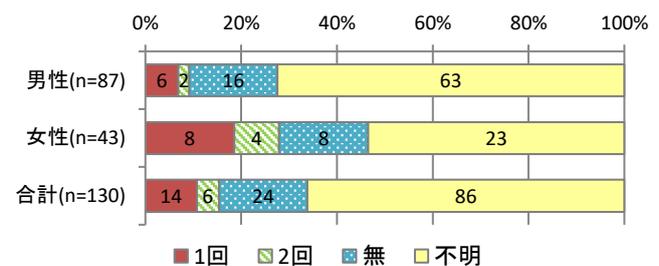


図9 年齢階級別ワクチン接種歴別報告数【男性】

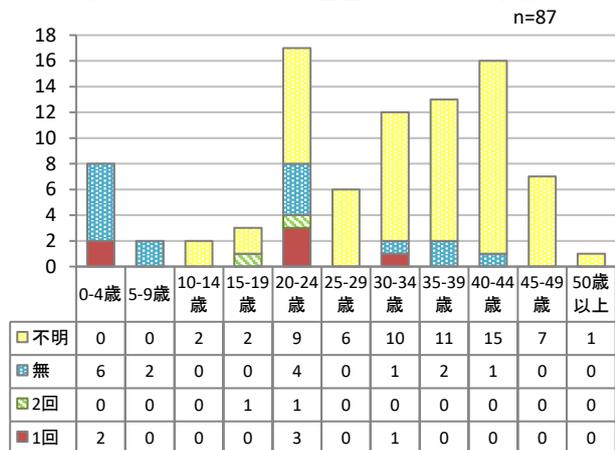
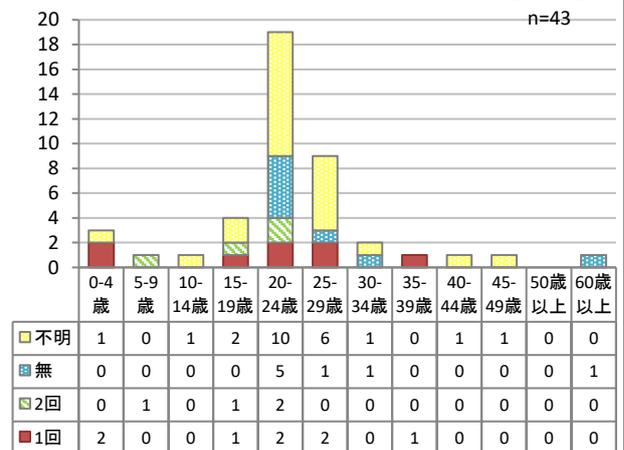


図10 年齢階級別ワクチン接種歴別報告数【女性】



### 4 推定感染地域（2008年～2019年2月24日）

・推定感染地域は県内が88%を占めています。〔図11〕

図11 推定感染地域

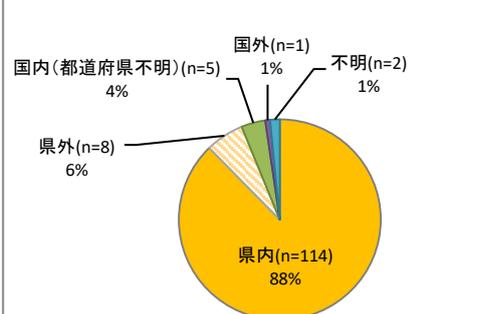
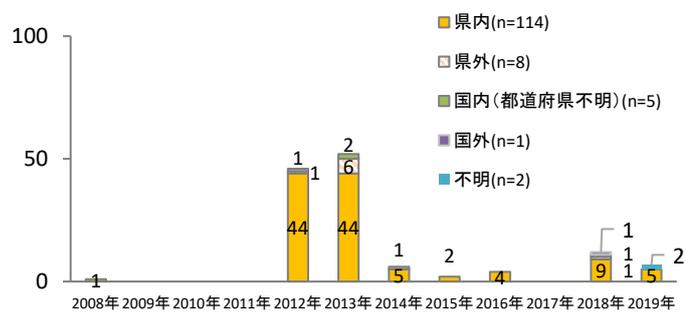
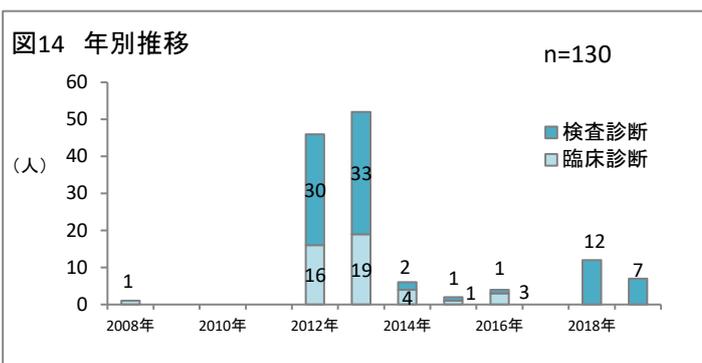
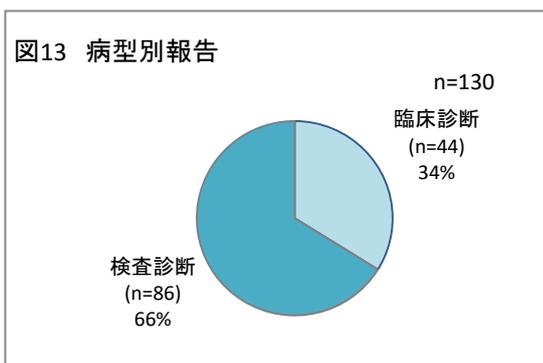


図12 年別推定感染地域



## 5 病型別（2008年～2019年2月24日）

・検査診断例が66%となっています。〔図13〕



- ・臨床診断⇒届出に必要な3つの臨床症状(全身性の小紅斑や紅色丘疹、発熱、リンパ節腫脹)の全てが認められる。
- ・検査診断⇒上記の臨床症状が1つ以上認められ、PCR検査陽性、IgM抗体の検出などの検査結果から、感染が判明したもの。

『風しんに関する特定感染症予防指針』(平成26年3月28日 厚生労働省告示第122号)では、風しん患者が発生した場合は、感染経路の把握等の調査の実施に努め、原則としてウイルス遺伝子検査を実施し、確実に風しんを診断すること等、迅速な対応が求められています。